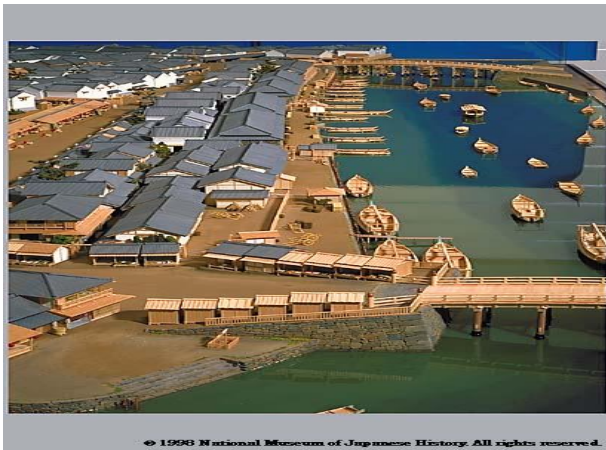


\*\*\*木更津河岸跡の案内板について\*\*\*



1、原文の1行目に『本船町の河岸』の本船町は左図のほぼ真中下側でその下に魚カシ・魚市バとの記載あり  
下の方に『江戸橋』が記されています。江戸名所図会の江戸橋の項に、『日本橋の東にありて、伊勢町より本材木町へ行く間に架す。南の橋詰異（南東）の角に船宿あり。江戸のうち諸方への船場なり。また、同所西の方、木更津河岸と字す。房州木更津渡海往還の船ここに集ふゆゑに名とす』木更津河岸が紹介されています。



2、左の図は、国立歴史民俗博物館の画像ライブラリからの模型図ですが、手前が江戸橋で、上方に見えるのは日本橋になります。江戸橋のすぐ左の河岸広い場所が木更津河岸と思われます。

原文では、大阪冬の陣において木更津村から水主として徴用されて相果てた12名の家族の救済策の一つとして専用の船着き場が与えられたと書かれており後の木更津河岸という特権的な河岸となった由緒が記載されています。



3、左、下の写真は、現在の江戸橋の風景です。



4、ところで、現在の江戸橋近辺には、当時の木更津河岸の由緒等を示す案内板が全然見当たりません。日本橋発祥、魚市場、鎧の渡し等の案内板は、ありますが、木更津河岸跡には、何もなく大変寂しく残念に思います。又当時の地元木更津での船主は、北組、南組と両組からなり組合を結成し繁栄。一方の北組（北片町）の『北かしの跡』の碑が現在の港の漁業協同組合裏手の鳥居のところにありますが、これも案内板もなく、協同組合金庫の方にその設立経緯を聞いても分からずじまいです。

木更津河岸跡に関し東京も地元でも、もっと光をあてて、案内板をたて当時の木更津の繁栄の歴史がわかるようにしたいものです。(文責 今井)

